

視覚障害特別支援学校における DAISY 規格資料導入の現状と課題

堀内 京

本研究は、視覚障害特別支援学校における DAISY 規格資料導入の現状と課題を明らかにするものである。研究方法として文献調査及びインタビュー調査を実施した。

近年、国は特別支援教育を積極的に推進し、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育・サポートを行うことを求めている。視覚障害特別支援学校においても、健常者と障害者の共生のため個々の障害の程度に合わせた幅広いサポートや、視覚障害を抱える地域住民に対するセンター的機能等が求められている。そのため、視覚障害特別支援学校は個人や、個人の通学する通常学校に対して、指導や教材、資料・メディアの提供を行う必要が生じている。

視覚障害者が利用する資料の形態には、一般的な墨字から点字資料・録音資料・拡大図書等様々なものがある。多くの視覚障害者に利用されているが、点字資料は収納スペースの問題・点字未習得者の利用が不可能、録音資料は情報へのアクセスの利便性に劣る・劣化・録音媒体自体の生産停止など、それぞれ問題を抱える資料でもあった。これらのデメリットを克服することが期待できるのが、DAISY 規格資料である。DAISY 規格資料は、Digital Accessible Information System という規格を用いた資料で、音声による DAISY 録音図書、視聴覚双方を同期させた情報を提供するマルチメディア DAISY 図書を総称するものである。DAISY 規格資料は、個人に合わせた操作・出力が選択出来る、多岐にわたる利用が可能なユニバーサル資料である。そのため、地域住民や生徒個人に合わせた幅広いサポートを必要とする視覚障害特別支援学校においても非常に有益な資料である。

視覚障害特別支援学校の役割を果たすためにも、視覚障害特別支援学校の図書館は非常に幅広いニーズに応える必要がある。そのため、視覚障害者用の資料の特徴や欠点などを克服するために DAISY 規格資料を図書館に導入する必要があると考えられる。しかし文献調査の結果からは、厚生労働省指導下の点字図書館に比べ、文部科学省指導下の視覚障害特別支援学校及びその図書館では導入が今一歩進んでいないことが判明した。

そこで現場での認識を明らかにするためインタビュー調査を実施した。その結果、視覚障害特別支援学校の図書館で DAISY 規格資料を導入していくためには、学校図書館担当者が非常に重要な役割を果たすことが判明した。学校図書館担当者が DAISY 規格資料の有用性を理解し、どれだけ周囲に対して働きかけを行うかが、予算などの制約のある中で DAISY 規格資料導入を行う鍵となる。その一方で、DAISY 規格資料の有用性に対する学校図書館担当者の見解に格差が見られたことは大きな問題である。教員・担当者間の DAISY 規格資料に対する認識の格差を克服するために、定期的に研修会や利用講習等を実施し、有用性に関する十分な広報活動を行うことが必要と考える。

(指導教員：平久江 祐司)